

授業科目名	アクティブラーニング・ファシリテーション	単位数	2単位
担当教員名	天野一哉	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
「学位授与の方針」との関係			
DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる(実践力) DP5.共生社会創造の目的のために、様々な分野について絶えず学び続ける態度を持つことができる(継続力)			
授業のテーマ及び到達目標			
(1)アクティブラーニングおよびファシリテーションを理解する。 (2)アクティブラーニングをおよびファシリテーション活用するスキルを身につける。 (3)アクティブラーニングをおよびファシリテーション指導するスキルを身につける。			
授業の概要			
アクティブラーニングの一形態であるプロジェクト・ベース・ラーニング(PBL)およびファシリテーションの技法を用い、ディスカッション等のグループワークを通して、課題を設定し、解決策(課題の回答)を探究する。			
授業計画			
第1回:アクティブラーニング 第2回:ディープ・アクティブラーニング 第3回:学生の関与 第4回:教授学理論 第5回:協同学習 第6回:PBL 第7回:主体的対話的深い学び 第8回:課題設定(自己) 第9回:課題設定(グループワーク) 第10回:仮説立案(グループワーク) 第11回:調査(グループワーク) 第12回:分析/考察(グループワーク) 第13回:プレゼンテーション(グループワーク) 第14回:省察 第15回:展望			
スクーリングでの学修			
第1回から第7回(自己学習)までの総括。教員からの問題提起を踏まえ、第8回から第13回までをグループワークによって実施する。			
テキスト			
松下 佳代 編(2015)『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房、978-4326251018			
参考書・参考資料等			
(1)各自で自己のテーマに関する学術的専門書・論文を選択し、熟読熟考すること。 (2)天野 一哉(2013)『中国はなぜ「学力世界一」になれたのか - 格差社会の超エリート教育事情』中央公論新社、978-4121504562			
学生に対する評価			
スクーリング評価(25%)、レポート評価(25%)、科目修得試験(50%)			